

# 子供たちと住まいを考える 住育（小学校への出前講座）を終えて

女性委員長 飯沼 あい子

今年度女性委員会が公益事業として活動した「子供たちと住まいを考える（小学校出前講座）」が、財団法人建築技術教育普及センターの普及事業助成選考に選ばれました。（平成23年11月18日付け）

事業としては、未来を担う子供たちに健全な住まいについて学んでいただくための住育の授業を小学校へ出向いて受け持たせていただく事を目的として、今年度は太陽光の利用についての授業を行いました。

## 住育（小学校への出前講座）スケジュール

9.28	北小学校	打合せ	10.4	同校授業	6年生	46名
10.21	西小学校	打合せ	10.26	同校授業	5年生	55名
11.8	大野小学校	打合せ	11.18	同校授業	4年生	81名
11.15	中小学校	打合せ	11.24	同校授業	5年生	34名
11.16	南小学校	打合せ	11.22	同校授業	6年生	40名
11.22	西小学校	打合せ	12.1	同校授業	4年生	37名

## 授業内容

（はじめに）地震や原子力発電所の事故を受けて自然エネルギーからも電気を作れるという話

（本題）太陽光発電のしくみについての説明 ・充電電池でプラレールを走らせる実験 ・人間電池になる実験

（おわりに）学校に設置されるパネルの規模や発電量の説明

## 授業風景



## 住育講座を終えて

今年度初めての試みで小学校へ出かけましたが、学校により対象学年や人数が全く異なるという状況の元で、臨機応変に対応をせざるを得ませんでした。しかし、授業を重ねるうちに委員会のメンバーも慣れてきて余裕の表情になっていきました。そして最後の学校が終ると達成感と共に少しの寂しさを覚えるまでになり、とても良い経験が出来たと思いました。

授業ではどの学校も生徒たちは熱心に聞き入っていましたし、体験実験ではとても楽しそうに取り組んでいました。特に太陽光発電に使う素材や乾電池や充電電池の違い。また人間が電池になれる訳の質問もあり中身の濃いものとなりました。

この授業を踏まえて各学校では更に発展的な授業へ継続展開をされる事を伺い嬉しく思いました。

今後については「こどもたちと住まいを考える」が表題ですので、来年度以降もふさわしい授業を考えて受け持つ事ができればと思っています。